

令和元年度 第4回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA 部会 議事要旨

日 時：令和2年3月26日（木） 17：00～19：00

場 所：琉大病院がんセンター

構 成 員：16名

出 席 者：7名

百名伸之(琉大病院小児科)、森島聡子(琉大病院第二内科)、太田守克・(代理 大城まち子 沖縄県教育庁健体育課)、當銘保則(琉大病院整形外科)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、友利敏博(森川特別支援学校)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：9名

朝倉義崇(中部病院血液・腫瘍内科)、比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センター放射線科)、佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターCL S)、大城一郁(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、國仲弘一(琉大病院第一外科)、仲里可奈理(沖縄県保健医療部健康長寿課)、銘苺桂子(琉大病院産婦人科)、浜田聡(琉大病院小児科)、

陪 席 者：1名

石川 千穂(がんセンター事務)

【報告事項】

1. 第3回小児・AYA 部会 議事要旨(10月30日)

百名委員より資料1に基づき、第3回小児・AYA 部会 議事要旨について説明があった。

2. 「がん教育」について

太田委員代理の大城様より資料2に基づき、文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」について、令和元年度に行われた事業の実施内容報告と次年度の事業計画について報告があった。

3. 琉大病院における小児がん・移植長期フォローアップ外来の開設について

資料3に基づき、百名委員より昨年12月より琉大病院小児科に長期フォローアップ外来が開設されたと報告された。現在は月2回枠だが状況を見て毎週行えるようになればと考えているとの説明がされた。

【協議事項】

1. 次年度の部会長及び副部会長について

次年度も部会長は百名委員、副部会長は森島委員・銘苺委員の継続と承認された。

2. 次年度の部会委員について

医療者以外でこういう方が入った方が良い等提案はあるかと、増田委員より質問があった。金城委員より、院内学級の先生や看護師さん、保育士さんがいてくれると病院の中で患者さんがどのように過ごしているかわかれば患者会としても外側で啓発活動がしやすくなると意見があった。百名委員より小児科の看護師長に入って頂くのはどうかと提案があり、承認された。また、増田委員より金城委員へ患者会からも委員就任をお願いしたい方がいらっしゃいましたらご提案頂ければと発言があった。

3. 小児・AYA世代の生殖機能温存について

(1) 協議会議長への提案書の改訂について

増田委員より、資料5に基づき、文言に修正があるかもしれないが次回幹事会及び協議会にがん患者の妊孕性温存について提案するつもりであるとの発言があり承認された。

(2) 沖縄県共通の妊孕性温存の説明文について

銘苺委員の代理で増田委員より簡単に説明があり、次回引き続き協議となった。

(3) 次年度の院内医療者向け研修会の企画について

銘苺委員の代理で増田委員より説明があり、次回引き続き協議となった。

(4) 沖縄県内の各医療機関での出張研修会について

銘苺委員の代理で増田委員より、新型コロナウイルスの影響で変更も考えられるが、まずは5月に中頭病院で研修会を行う予定であり、拠点病院でも6月以降に開催予定であると説明があった。

(5) 妊孕性温存の窓口設置について

銘苺委員の代理で増田委員より、琉大病院は外来までできているが、他5病院はまだなので、精子の採取・一時保存等、できることは各病院でして頂くための窓口を開設してもらえようアプローチしていき、何かあった時は琉大病院へ移してもらうような形に出来ればとの発言があった。増田委員より各病院に声掛けしているので、次回も引き続き協議することとなった。

4. 小児がん患者の長期フォローアップについて

(1) フォローアップ手帳の運用について

百名委員より、前回も議題にあがったが、フォローアップ手帳を患者さんごとに作成し持参して頂くことになっているとの説明があった。

5. 小児がんに関する学校現場への啓発について

百名委員より、現状まだ進捗無いことが説明された。入院中は森川支援学級に通い、退院後現籍校に戻った際、養護教員や担任の先生方へは説明があるのだが、学校全体へ理解を深めてもらうためにも校長など管理者の方にも状況を知ってもらうよう講演会等を行ったほうがよ

いのだが、学校現場としては可能かどうか質問があった。友利委員より、必要に迫られている学校であれば受け入れやすいかもしれない、学校管理者に理解をしてもらわないと学校全体での共有は難しいと思うのでやる意義は大いにあると思うとの発言があった。また、金城委員から、学校に戻ってからの生活が重要になってくる、患者会としても共有のためにどういうふうに学校と話をするのか、どうアプローチをかけるかを協議しているところだとの発言があった。また、友利委員から実体験をもとに、多くの学校を対象にするよりは、実際に必要がある学校に派遣するような事業の方が深い理解をえられ、直接学校運営に影響しやすいのかもしれないとの意見があった。百名委員からも、今は個別に対応しているが、病院と支援学校、在籍校とがつながるシステムがあればいいかもしれないとの発言があった。制度化できるよう、今後も患者会とも相談しながら詰めていこうということで承認された。次回部会までに百名委員と金城委員の方で原則論文書のたたき台を作成することとなった。

6. 小児・AYA世代に対するがん相談支援センターの在り方について

増田委員より、予算的に特化した相談員を置くことは難しいが、状況を改善するためにも何か提案があるかと質問があった。

金城委員より、患者会からもピアサポート研修会を受けるつもりであるが、例えばピアサポート研修を受けて相談に入るということは可能かとの確認があり、増田委員より可能であるとの回答があった。百名委員からの患者会からは是非研修を受けて頂き、相談に入って頂ければ紹介しやすいとの発言があり、その方向で進めることとなった。

7. AYAがんの集約化について

増田委員より、幸いなことに沖縄県は小児がんに関しては集約出来ているのでAYA世代のがんに関しても進めて頂きたいとの発言があった。當銘委員より、骨・軟部腫瘍に関してはほとんど他の病院では取り扱っていないとの発言があった。百名委員より、実際のAYA世代のがん患者さんの現況をまとめたものをもとにして集約化を考えてはどうかとの提案があり、次回増田委員よりデータ資料を用意し次回も協議することとなった。

8. 15～20歳(～25歳)のがん患者に対する小児科領域のプロトコールの準用について

協議7とつながり、増田委員よりこちらの方も何パーセント準用されているかデータを出す必要があるとの発言があり承認された。

9. 今後の沖縄県における小児・AYA世代への種々の支援や助成について

百名委員より、資料9に基づき、九州他県における小児・AYA世代がん患者に関する取り組みについて報告があり、各県で比較して沖縄県は教育において先進的であるとの報告があった。一方、妊孕性温存に関してはなかなか助成がおいてないこと、在宅に関しても手つかずの状態であることを挙げ、県の方へもっと働きかけるべきであるとの提案があった。増田委員より、今後、予算をつけることができるよう条例の改正にアプローチをかけることができるとの発言があった。

10. 次回開催日程について

増田委員より、次回から第〇回の〇曜日にする、など固定するのはどうかとの提案があった。後日事務局のほうで委員へ確認、また働き方改革の観点からも時間も早めに終われるように調整していきたいということで承認された。